



薬局通信



第129号



大阪母子医療センター

新規試用または採用、採用区分が変更になった医薬品一覧

新規試用医薬品	新規院外専用医薬品
① ロピバカイン塩酸塩 0.75%注 75mg/10mL「テルモ」 ② ピリヴィジェン 10%静注 2.5g/25mL・5g/50mL・10g/100mL・20g/200mL ③ イグザレルト錠 15mg ④ イグザレルトドライシロップ小児用 51.7mg	① エタネルセプト BS 皮下注 50mg ペン 1.0mL「MA」 ② ユナシン錠 375mg ③ サラソスルファピリジン 500mg 錠 ④ マンジャロ皮下注 7.5mg アテオス ⑤ 小児用レルベア 50 エリプタ 30 吸入用 ⑥ ソランタール錠 100mg ⑦ トレリーフ OD 錠 25mg ⑧ ジャカビ内用液小児用 0.5%
新規採用医薬品	
① ポプスカイン 0.5%注 50 mg/10mL ② ポプスカイン 0.25%注 250 mg/100mL（要事購入） ③ アプリスボ筋注用 ④ ラフチジン錠 10mg「サリ」 ⑤ プレベナー20 水性懸濁注	
新規患者限定医薬品	
① エンタイピオ皮下注 108mg シリンジ ② ビルテプソ点滴静注 250mg ③ アイクルシグ錠 15mg	

変更した医薬品

No	院内採用削除薬品名	理由	代替薬名
1	ラクツロース・シロップ 60%「コーワ」	左記薬剤と同じ効能効果を持ち、さらに小児及び妊産婦への適応もあるため	ラクツロースシロップ 65%「タカタ」
2	ザイザルシロップ 0.05%	後発品切替のため	レボセチリジン塩酸塩シロップ 0.05%「ニプロ」
3	タプロス点眼液 0.0015%	後発品切替のため	タフルプロスト点眼液 0.0015%「わかもと」
4	コントロール散 10%	処方や調剤間違い防止のため	バランス散 10%

採用薬品の処方開始は、原則として**2025年3月4日(火)**からになります。

ただし、採用中止薬、切り替え等は院内在庫薬がなくなり次第実施となりますので開始日が異なる場合があります。

新規試用医薬品

① ロピバカイン塩酸塩 0.75%注 75mg/10mL「テルモ」 処方箋医薬品

(テルモ株式会社) 長時間作用性局所麻酔剤

一般名：ロピバカイン塩酸塩水和物

採用理由

同種同効薬（アナペイン）が供給不安定になり、在庫不足の状況になったため。

効能効果

麻酔（硬膜外麻酔、伝達麻酔）

用法用量又は使用方法

本剤に血管収縮剤（アドレナリン）を添加しても、作用持続時間の延長は認められない。

処方区分：院内処方可

長期投与の可否：可

薬価：260 円/管

② ピリヴィジェン 10%静注 2.5g/25mL・5g/50mL・10g/100mL・20g/200mL

処方箋医薬品

(CSL ベーリング株式会社) 血漿分画製剤（液状静注用人免疫グロブリン製剤）

一般名：人免疫グロブリン G

採用理由

同種同効薬（ヴェノグロブリン IH）が供給不安定になり、在庫不足の状況になったため。

効能効果

- 無又は低ガンマグロブリン血症
- 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の筋力低下の改善
- 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の運動機能低下の進行抑制（筋力低下の改善が認められた場合）

用法用量又は使用方法

- 無又は低ガンマグロブリン血症

通常、1 回人免疫グロブリン G として 200~600mg (2~6mL) /kg 体重を 3~4 週間隔で点滴静注又は緩徐に静注する。患者の状態によって適宜増減する。

- 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の筋力低下の改善

通常、成人には 1 日に人免疫グロブリン G として 400mg (4mL) /kg 体重を 5 日間連日点滴静注する。

- 慢性炎症性脱髄性多発根神経炎の運動機能低下の進行抑制（筋力低下の改善が認められた場合）

通常、成人には人免疫グロブリン G として「1,000mg (10mL) /kg 体重を 1 日」又は「500mg (5mL) /kg 体重を 2 日間連日」を 3 週間隔で点滴静注する。

処方区分：院内処方可

長期投与の可否：可

薬価：2.5g/25mL 25,709円/瓶
5g/50mL 49,312円/瓶
10g/100mL 98,339円/瓶
20g/200mL 195,977円/瓶

③ イグザレルト錠 15mg

処方箋医薬品

(バイエル薬品株式会社) 選択的 direct 作用型第 Xa 因子阻害剤

一般名：リバーロキサバン

採用理由

本剤は現在、患者限定で使用しているが、Fontan術後の血栓予防薬として使用しており、小児適応があり、使用頻度が増加しているため。

効能効果

成人

- 非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制
- 静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症）の治療及び再発抑制

小児

- 静脈血栓塞栓症の治療及び再発抑制
- Fontan手術施行後における血栓・塞栓形成の抑制

用法用量又は使用方法

- 非弁膜症性心房細動患者における虚血性脳卒中及び全身性塞栓症の発症抑制

通常、成人にはリバーロキサバンとして 15mg を 1 日 1 回食後に経口投与する。なお、腎障害のある患者に対しては、腎機能の程度に応じて 10mg 1 日 1 回に減量する。

- 静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症及び肺血栓塞栓症）の治療及び再発抑制

成人

通常、成人には深部静脈血栓症又は肺血栓塞栓症発症後の初期 3 週間はリバーロキサバンとして 15mg を 1 日 2 回食後に経口投与し、その後は 15mg を 1 日 1 回食後に経口投与する。

小児

通常、体重 30kg 以上の小児にはリバーロキサバンとして 15mg を 1 日 1 回食後に経口投与する。

- Fontan手術施行後における血栓・塞栓形成の抑制

通常、体重 50kg 以上の小児にはリバーロキサバンとして 10mg を 1 日 1 回経口投与する。

処方区分：院内外処方可

長期投与の可否：可

薬価：476.⁴⁰円/錠

④ イグザレルトドライシロップ小児用 51.7mg

処方箋医薬品

(バイエル薬品株式会社) 選択的 direct 作用型第 Xa 因子阻害剤

一般名：リバーロキサバン

採用理由

本剤は体重 20 kg以下で使用と用法に記載されている。現在、当センターでは、錠剤を粉砕して使用しており、保健医療査定を受けることがあるため。

効能効果

- 静脈血栓塞栓症の治療及び再発抑制
- Fontan 手術施行後における血栓・塞栓形成の抑制

用法用量又は使用方法

- 静脈血栓塞栓症の治療及び再発抑制

通常、体重 2.6kg 以上 12kg 未満の小児には下記の用量を 1 回量とし、1 日 3 回経口投与する。体重 12kg 以上 30kg 未満の小児にはリバーロキサバンとして 5mg を 1 日 2 回、体重 30kg 以上の小児には 15mg を 1 日 1 回経口投与する。いずれも空腹時を避けて投与し、1 日 1 回、2 回及び 3 回投与においては、それぞれ約 24 時間、約 12 時間及び約 8 時間おきに投与する。

体重	1 回量 (リバーロキサバン 1mg は懸濁液 1mL に相当)			1 日用量
	1 日 1 回	1 日 2 回	1 日 3 回	
2.6kg 以上 3kg 未満			0.8mg	2.4mg
3kg 以上 4kg 未満			0.9mg	2.7mg
4kg 以上 5kg 未満			1.4mg	4.2mg
5kg 以上 7kg 未満			1.6mg	4.8mg
7kg 以上 8kg 未満			1.8mg	5.4mg
8kg 以上 9kg 未満			2.4mg	7.2mg
9kg 以上 10kg 未満			2.8mg	8.4mg
10kg 以上 12kg 未満			3.0mg	9.0mg
12kg 以上 30kg 未満		5mg		10mg
30kg 以上	15mg			15mg

○Fontan 手術施行後における血栓・塞栓形成の抑制

通常、2 歳以上の小児には、体重に応じて下記の用量を 1 回量とし、1 日 2 回又は 1 日 1 回経口投与する。1 日 1 回及び 2 回投与においては、それぞれ約 24 時間及び約 12 時間おきに投与する。

体重	1 回量 (リバーロキサバン 1mg は懸濁液 1mL に相当)		1 日用量
	1 日 1 回	1 日 2 回	
7kg 以上 8kg 未満		1.1mg	2.2mg
8kg 以上 10kg 未満		1.6mg	3.2mg
10kg 以上 12kg 未満		1.7mg	3.4mg
12kg 以上 20kg 未満		2.0mg	4.0mg
20kg 以上 30kg 未満		2.5mg	5.0mg
30kg 以上 50kg 未満	7.5mg		7.5mg
50kg 以上	10mg		10mg

処方区分：院内外処方可

長期投与の可否：可

薬価：5,307.²⁰円/51.7mg1 瓶